

無線機の整理

JA1W0B 齋藤章

1990年に再開局して早25年になります、再開局時に調達した無線機やその後調達した無線機も古くなり整理する時期になりました。

今回整理した無線機は、IC-726SとFT-221です。

IC-726SはHF+50MHzのオールモード機で5年位前から、送信出力が低下しHFは1W、50MHzは3w位しかパワーが出なくなり昨年はずいにHFはパワーが出なくなり、50MHzも2W位になりました。

それでも、受信は出来たのでたまに電源をいれて受信はしていました。

しかしその受信回数も次第に少なくなりました。

再開局当時に50MHzの運用中に、50.240SSB モービルグループと出会ってから固定だけの運用ではなく移動運用やモービル運用の1台で3役を務めてくれました。

IC-726Sを購入した店主から「モービルにお使いですか?」と言われましたが、その時はモービル運用に使う気はありませんでした。

しかし、翌1991年には50.240のロールコールに参加してから手持ちの144MHz 5/8λを50Mの1/4として使用してモービル運用を開始しました。モービル用には少し大き目でしたが、カムリのグローブボックスの中身を全て出したら、スッポリ収まりましたが、XYLには不評でした。

通勤モービルで使用する月曜日～金曜日はグローブボックスへ、固定運用する土曜日と日曜日は固定の棚にと、後にFT-690mIIを仕入れるまでは、移動運用を含めて、1台3役の活躍でした。

また、50MHz以外の

HF (7. 14. 21. 24. 28)

にもQRVしました。

7MHzは東大和市の固定時代には、フルサイズのインパーテットVダイポールを上げていましたので、10W出力でしたが日本全国とのQSOを楽しませてもらいまし

25年世話になったIC-726S



た。14Mや21Mもダイポールでしたが、太平洋の近隣諸国とのQSOを楽しませてもらいました。

21Mでは車に取付けたモバイルホイップに出力10WでVK局とQSO出来ました。1995年の4月でしたからサンスポットもボトム期でしたから大感激したのを覚えています。

29MhzのFMでは羽村までの通勤途中にHL局とのQSOなどが思い出されま
す。FT-221は某OMから譲り受けた無線機で、144MHzアナログのオールモード機で電源内臓型なので重量感があり、シャックでは王様の存在感があります。

デザインはFT-101やFT-625Dなどに似た旧タイプの無線機です、出力は10Wですがしっかりした作りになっています。

1990年に再開局した時に、既にアナログの無線機は無く、中央に周波数ダイヤルはありますが、表示はデジタル表示で何となく味気ない感じがしていました。

このFT-221はダイヤルを回すと周波数が記載された円盤が回り周波数が分かります。



す。144MHzのバンド幅は144~146MHzの2メガなのに、144.0、144.5、145.0、145.5MHzに4分割されています。

正に私の憧れの無線機らしい無線機でした。

144MHzはあまりQRVしないバンドですが、固定のANT環境で運用する場合はHFの比べると即QRV出来てFBなので、50MHzでQSO相手がいないと144MHzのSSBに出ていました。

IC-726Sの様に無線機の機能が低下した、重量級の無線機はシャックの棚スペースも多く取られる事もあるし、1.9~430まで運用できる、コンパクトなFT-857まかせる事にしました。

それもありましたが、私もそろそろ終活の準備を始めなければと思い、機能低下した無線機や重量級無線機を整理しようと考えました。

1月号のCQ誌を眺めていると、青梅の某ハムショップで古い無線機の買取広告がでていましたので、早速電話で見積をしてから持ち込みました。

FT-221は古過ぎて値づけ出来ないようでした、IC-726SはHFの送信が不能の為、ジャンク扱いの引き取り値でした。

いずれにしても、ゴミとして廃棄するよりまだいいのかなと思いました。

まだ、まだ古い無線機がありますので、徐々に整理して行きたいと思っています。

おわり